

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和7年度病害虫発生予察技術情報第 16 号を公表したので送付します。
令和7年度病害虫発生予察技術情報第 16 号

サツマイモ基腐病の防除

サツマイモ基腐病は全国的に大きな被害が見られており沖縄県では平成 30 年頃からは場での発生が確認されている。防除は病原菌をほ場に「持ち込まない、増やさない、残さない」事が重要である。

1 発生生態

- (1) 病原体は糸状菌の一種 *Diaporthe destruens* (図1) で主に、感染したつるや種イモを植え付けることでほ場に持ち込まれる。
- (2) 感染すると地際部の茎および茎に近い部分の塊根が黒色～暗褐色に腐敗する(図2、3、4)。被害が進行すると、茎の上部及び塊根全体に腐敗が広がり、乾燥して硬くなり、やがて枯死する。
- (3) 病変部に柄子殻(図5)と呼ばれる微小な黒粒が形成され、多数の孢子が漏出する。孢子は降雨で生じた湛水や跳ね上がりなどにより周辺株にも広がる。
- (4) 病原菌は植物体から離れると土壌中では長く生存できないが、罹病残渣の中では長期間、生存し、次作の感染源となる。
- (5) 主にヒルガオ科植物に感染し、栽培作物での被害は「かんしょ」のみである。

2 防除対策上注意すべき事項

(1) 持ち込まない対策

- ① 発生ほ場からつる苗や種イモを取らない。
- ② 褐変の無いつる苗を選定し、農薬での浸漬処理、又は温湯処理(48℃で15分浸漬)で消毒する。消毒の薬液は当日、調整した薬液を使用し、苗全体を浸漬する。
- ③ 腐敗の無い種イモを選び温湯処理(48℃で40分浸漬)で消毒する。
- ④ 苗床は農薬による土壌消毒を行い散布後は速やかにビニール等で被覆する。又は有機物混和による土壌還元消毒を行う。
- ⑤ 発生の無いほ場から作業を行い、発生ほ場で使用した資材や機材は土などを丁寧に落として洗浄してから使用する。

(2) 増やさない対策

- ① サトウキビ等との輪作を行い、野良イモが発生する場合は除去する。
- ② 植え付け前にサブソイラーによる耕盤破碎等の排水対策を行う。
- ③ 抵抗性品種を導入する。
- ④ 定期的に殺菌剤の茎葉散布を行う。
- ⑤ 発病株はほ場に持ち出して処分する。
- ⑥ 発生ほ場では収穫を早めに行う。特にかんしょ肥大期の台風による茎の折損増加と加湿状態が続く時は、早めに収穫する。

(3) 残さない対策

- ①収穫後はほ場から速やかに収穫残渣を持ち出して処分する。又は、耕耘を数回、丁寧に行い、収穫残渣の分解促進と野良イモの発生を防ぐ。
- ②深耕を兼ねて天地返しを行い、地表付近の残渣を減らす。



図1. 病原菌の孢子
(左側: α 孢子、右側: γ 孢子)



図2. 株元のつる枯状況



図3. 腐敗した塊根



図4. ほ場での発生状況



図5. つる黒斑部位の柄子殻

